

# 農業教育の芽生え

農学校

## 学制による農業教育

政府は富国強兵、殖産興業の推進のため、近代的な学校制度への改革に着手した。わが国の農業教育は殖産興業の一環として、西洋農学導入の指導者養成のためのものであった。駒場農学校、札幌農学校が最初の高等専門の農学校である。当時、文部省の学制による農学校は設置されていなかった。

明治16(1883)年4月、文部省により「農学校通則」が定められ、中等教育としての農業学校の制度化が進められた。

全文17条からなるこの規定は学制による農業教育制度の最初のものとして重要な意義をもったが、3年後には廃止され、それとともに全国の多くの農学校が閉鎖されることとなった。

## 山口県の農業教育

農学校通則（明治16年）

### 一山口農学校の誕生一

山口県は明治11年に国から煙草の種子などの配布を受け、山口上宇野令(中央2丁目現市民館)に栽培試験場を創設し、樹苗・草花・果樹などの栽培試験をはじめた。明治16年には、場内に在学3年課程の農事講習会を開設し、農家の子弟を対象に農業教育を行うようになった。翌年には、獣疫の流行から獣医の必要に迫られ、獣医講習会を併設した。

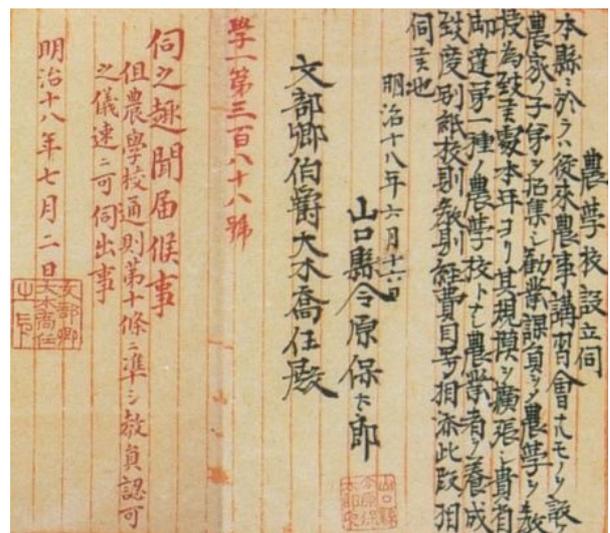
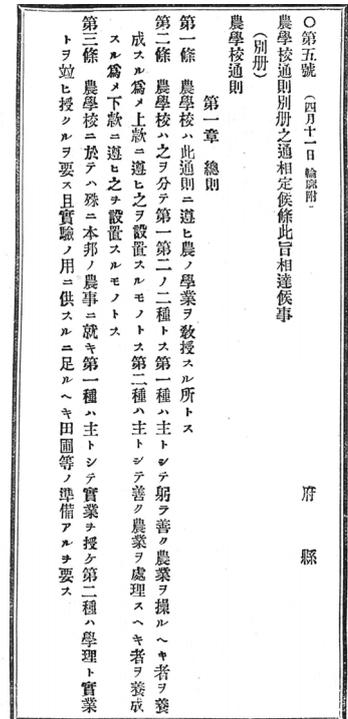
明治18年、「獣医免許規則」が公布されたことにより獣医学校または、農学校の必要が認められ、県は両講習会を廃し、第1種(※)の農学校として「山口県山口農学校」を同場所に開設した。同時に獣医学科を設置し修業年限2年で獣医を養成した。全国に獣医学科は6校設置されたが、農学校に獣医科を設けていたのは、山口、宮城の2校のみであった。

こうして県で最初の実業学校としてスタートした農学校は県下農業教育機関の中心となり、農業の振興と地域文化の向上に寄与する人材の養成を目指した。

※農学校通則により以下のとおり定められている。

第1種：小学中等科卒業の学力を有し、15歳以上。修業年限2年で、実務につく者の養成を目的とする。

第2種：初頭中学校卒業の学力を有し、16歳以上。修業年限3年で、学理と実業を授けることを目的とする。



農学校設立伺(明治18年)

## 山口農学校の移転 ひかみ -氷上校舎-

明治18年に開校した山口県山口農学校も時代の進展とともに敷地が狭くなり授業や実習に支障をきたすようになったため、明治23年11月に大内村氷上に移転することになる。

氷上校舎全景



文部省は、日清戦争を契機として実業教育制度改革に意欲的に取り組み、実業補習学校・徒弟学校・簡易農学校規程等を制定した。

明治27年の簡易農学校規程によって、農業教育は実利的な方面に重点がおかれるようになった。そのため県は明治28年4月、先に移転した氷上校舎に山口県簡易農学校を併設した。しかし、その後31年には山口県農学校に併合し、簡易農学校は3年でその歴史を閉じることとなる。

さらに文部省は明治32年に実業学校令を制定。これを受けて山口県は、甲種(農科・獣医科)と乙種(農科・養蚕科)農業学校を開設し、山口県農学校を「山口県農業学校」と改称した。明治43年には氷上から吉敷郡小郡町に移転した。

このように教育制度の改変があり、校名、修業年限、定員に変動があったものの山口県立農業学校は、山口県の農業教育に大きな功績をのこしていった。

## 山口農学校の先生

たかおかただよし  
初代校長 高岡直吉 (1860—1942)

島根県津和野出身。札幌農学校(現北海道大学農学部)卒業後、明治18年7月、26歳の若さで山口県山口農学校の開校と同時に校長となる。在職1年2か月の間に農学校の教育発展の基礎づくりに貢献。特に英語教育に情熱を注ぎ、全国にさきがけ英語科の新設を実現。後、宮崎県知事、島根県知事、札幌初代市長を歴任する。



にかいじゅうろう  
二階重楼 (1859—1932)

萩市出身の植物学者。明治18年から17年間山口県山口農学校で教える。明治21年、日本人として初めて山口県で植物標本を採集・製作。山口県の植物学者の開祖。



### ミドリヨシノ

萩市の指月山のみにある山口県指定天然記念物。二階重楼が発見したソメイヨシノの変種。額が緑色のため開花すると薄緑の梨の花のように見える。